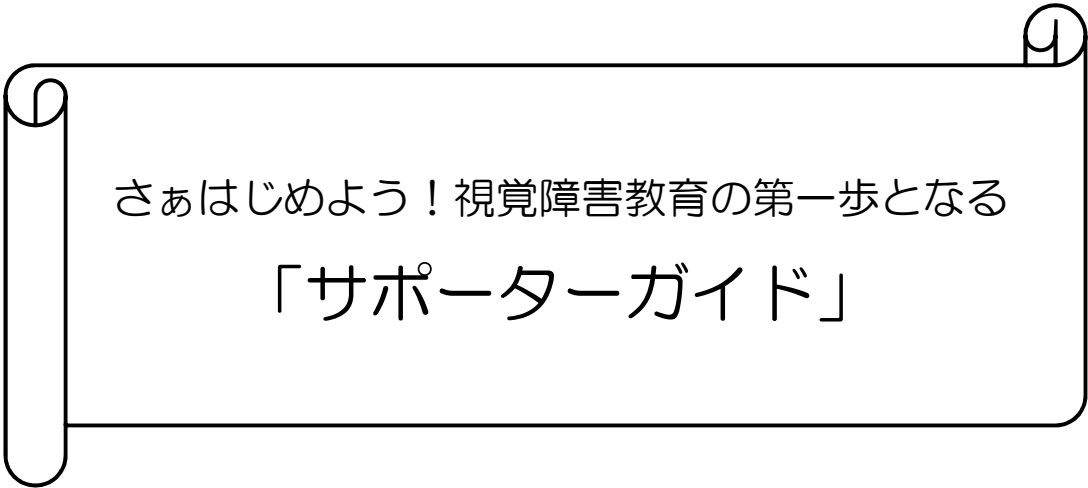


<参考資料>



さあはじめよう！視覚障害教育の第一歩となる
「サポーターガイド」

● このサポーターガイドの使い方 ●

○担任することになり不安がある…

チェックリストで確認する！	<ul style="list-style-type: none">・①～⑯の全てのチェック項目に答えましょう。チェック項目は、見えにくさのある子どもが学級にいる場合の準備のポイントになっています。
『読んでみよう！』を参考に、学級開きの準備をする！	<ul style="list-style-type: none">・①～⑯の項目に沿って学級開きの準備を進めましょう。チェックリストの後には、解説編『読んでみよう！』に支援のポイントを載せているので、読むことで必要な準備が具体的に分かり、見通しを持つことができます。見えにくさのある子どもに対しての支援の第一歩になります。

○子どもとかかわる中で分からないことや困ったことがある…

チェックリストで再確認する！	<ul style="list-style-type: none">・再度、①～⑯のチェック項目に答えましょう。子どもとかかわる中で年度初めとは考えが変わってきた項目があるでしょう。それは先生がかかわる中で見つけたことなので大切にしてください。子どもに聞きながらチェックできる項目は、子どもに尋ねて一緒に考えてみるのもいいですね。・このサポーターガイドの最後に、URL や参考書籍が載っています。『読んでみよう！』より詳しい情報が載っているので、参考にしてください。新たな発見がきっとあると思います。
----------------	---

○問題が解決しない時には…

特別支援学校につながろう！	<ul style="list-style-type: none">・地域にある特別支援学校に相談しましょう。視覚特別支援学校(盲学校)や地域の特別支援学校では、小中学校で学ぶ子どもたちやかかわる人たち(担任、保護者など)へサポートを行っています。子どもへのよりよい支援を一緒に考えましょう。
---------------	--

チェックリスト

さあはじめよう！視覚障害教育の第一歩となる「サポーターガイド」

年 月 日 () 記入者 ()

No.	項 目	できていない	できていない 少し	準備中
①	子どもの見え方や生活についての引き継ぎは受けていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②	入学前に子どもと保護者が来校する予定はありますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③	靴箱から教室までのルート ^の 安全確保はできていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④	座席の位置は、子どもにとって見やすい場所になっていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤	ロッカーや靴箱、傘立てなどは、子どもの分かりやすい場所になっていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥	負担の少ない姿勢で学習するための傾斜机や書見台がありますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦	黒板や掲示物は、見やすく整理されていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧	まぶしい時に閉められるカーテンやブラインドはありますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨	引き出しの中や道具の置き場所は決まっていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩	災害時の対応の仕方を決めていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪	校内で対象児のことについて、話し合う場はありますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫	他の児童に子どもの見え方の状態を知らせる準備はできていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬	子どもに合った文具はそろっていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭	子どもに合った教材はそろっていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮	子どもの見えにくさについて、十分に理解できていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯	分からないことや不安に思っていることなどを相談できる特別支援学校（盲学校など）の教育相談があることを知っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

読んでみよう！



① 子どもの見え方や生活についての引き継ぎは受けています

就学前の機関や学校が作成した個別の教育支援計画や個別の指導計画などを参考にしながら、見え方に関する配慮事項や生活の実態、指導・支援内容について具体的な情報を得ましょう。

<配慮事項の例>

- 学習活動
- 移動
- 教室環境
- 単眼鏡やルーペなどの視覚補助具
- 書見台
- 拡大教科書など

② 入学前に子どもと保護者が来校する予定はありますか。

保護者から、見え方や生活の実態、ニーズ（安全面、できるようになってほしいこと、継続して指導してほしいことなど）について情報を得ましょう。入学式の前に、教室や体育館・トイレの場所を子どもと一緒に確認しておきましょう。

③ 靴箱から教室までのルートは安全確保はできていますか。

弱視の子どもは、思わぬ場所をつまずいたりぶつかったりすることがあります。小さな段差は特に気づきにくいようです。移動の際に、校内外で危険と思われる場所（階段や段差、障害物が多い場所、暗い場所など）を子どもと一緒に歩いて確認しましょう。段差の境目に目立つ色のテープを貼ると分かりやすくなります。また、安全に通学できるように、足場の悪い場所や歩道がない道、交通量が多い道など、登下校に支障がないか保護者と確認しましょう。

④ 座席の位置は、子どもにとって見やすい場所になっていますか。

教室の座席の配置は中央の最前列が黒板に近くて最も見やすい位置とされています。しかし、見える範囲が狭い、明るい所がまぶしすぎる等、見え方によっては2～3列目や後方の席、まぶしさの少ない席がいいという場合もあります。黒板と机上面が最も見やすい位置を子どもと確認しましょう。拡大読書器や書見台を使用する場合は、それらを置く机を前または横にもう一つ用意しましょう。また、後ろの子どもにも配慮しましょう。

⑤ ロッカーや靴箱、傘立てなどは、子どもの分かりやすい場所
になっていますか。

靴箱や傘立て、ロッカーなど自分の場所が分かりやすいように、位置を端にしたり、ロッカーの側面や底面に目につきやすい色や模様をつけたりして工夫しましょう。フックの場合は、目立つ色やシール・触って分かる印をつけましょう。

⑥ 負担の少ない姿勢で学習するための傾斜机や書見台がありますか。

子どもが負担の少ない姿勢で学習できるように本やノートを斜めに置ける傾斜机や書見台を用意しましょう。

目安として、椅子の高さは『(床から膝の裏側の長さ) - 1 cm』、机の高さは『椅子の高さ + 座高の $1/3$ 』の高さになるようにしましょう。ただし、見え方の状態や活動内容によって少し高い方が見やすかったり、低い方がよかったです。実際に子どもに座らせてみて、適切な高さに調整しましょう。

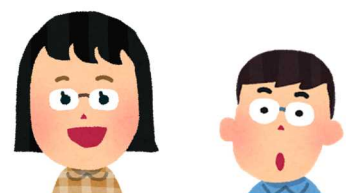
⑦ 黒板や掲示物は、見やすく整理されていますか。

チョークは赤や青の色は避け、アンダーラインや囲み線を効果的に使って分かりやすく板書しましょう。書く量の配慮や学習の流れが分かるような工夫をしましょう。教科によってどこに何を書くかを決めるのも一つの方法です。

コントラストをつけて教室内の掲示物が見やすいように工夫したり、教室の前面の壁の掲示を必要最小限なものに絞り、板書が見やすいように情報刺激を調整したりしましょう。

⑧ 明るさの調整ができるカーテンやブラインドはありますか。

見えにくさのある子どもには、まぶしさを強く感じる子どもが多くいます。見やすい教室環境を整えるため、光や明るさの調節を可能にする設備（カーテン・ブラインド等）を用意しましょう。ブラインドの方が明るさの調整ができます。また、近づけていろいろなものを見るため、手元が暗くなってしまうこともあります。その時は、電気スタンドがあると役立ちます。



⑨ 引き出しの中や道具の置き場所は決まっていますか。

見やすい、使いやすい文具を選ぶだけでなく、道具の置き方・整理の仕方も大切です。例えば、「消しゴムと鉛筆などはいつも所定の場所に置く」「筆箱の中は必要な本数だけに整理しておく」などの習慣が大切だと言えます。教室内の物も、棚やかごを有効に活用し、自分で管理できるようにしましょう。同じように、テープカッターやマジックなど、みんなで使うものの場所も決めておくことで生活しやすくなります。

⑩ 災害時の対応の仕方を決めていますか。

災害時に対応できるように、避難経路に明確な目印や照明を設置しておき、子どもと経路を確認しておきましょう。さらに、子どもを避難場所へ誘導できるよう、全職員で共通理解しておきましょう。

⑪ 校内で対象児のことについて、話し合う場はありますか。

担任が一人で抱え込まず、管理職・特別支援教育コーディネーター・養護教諭・交流学級担任と連携しましょう。コーディネーターのリードのもと、校内委員会を活用し全校体制で子どもを支援していきましょう。日々の会話の中で、子どもの様子や細かな成長について話題にしていくことも大切にしていきたいと思います。

⑫ 他の児童に子どもの見え方の状態を知らせる準備はできていますか。

円滑に学校で過ごすためには、他の児童にも子どもの見えにくさや具体的支援について説明することが必要です。見えにくさに関する子ども向けの理解啓発の本も出版されています。イラストや紙芝居など、児童の発達段階に応じて理解できるような工夫をしましょう。眼の病気のことを保護者が本人に伏せている場合もあります。説明する内容については、事前に保護者と確認しましょう。



⑬ 子どもに合った文具はそろっていますか。

見やすさに配慮した鉛筆・芯の太いシャープペンシル・ノック式の消しゴム・罫線の太いノート・白黒反転定規・色がついて乾くと消えるのり等を用意しましょう。

⑭ 子どもに合った教材はそろっていますか。

読みやすい文字の大きさのプリント・大きなマス目のノート、視覚補助具（単眼鏡・ルーペ・タブレット端末等）を用意しましょう。

⑮ 子どもの見えにくさについて、十分理解できていますか。

子どもの眼疾患と、その疾患によってどのような見えの困難さが生じるかを知っておきましょう。視力以外にも視野・まぶしさ・色の区別等に困難さを抱える子どももいます。無理な姿勢が続くと眼に負担を及ぼす眼疾患もあるので気をつけましょう。

見えにくくても工夫すれば自分でできることがたくさんあります。見えにくいから支援するのではなく、子どもが自己選択・自己決定できるようなかかわりを心がけましょう。

⑯ 分からないことや不安に思っていることなどを相談できる特別支援学校(盲学校)や機関等があることを知っています



特別支援学校では、センター的機能として見えにくさのある子どもや在籍する学校を支援しています。見やすくする工夫や、教科内容や自立活動、教材について等、電話による相談や巡回相談を行っています。子どものかかりつけの眼科医からのアドバイスを日常生活に生かすことも有効です。さまざまなネットワークを活用しましょう。

*この「サポーターガイド」は、見えにくさのある子どもに初めてかかわる先生向けに、視覚障害教育の第一歩となることを願って作成しました。さらに詳しく学べるようにURLや参考書籍を載せていますので、ぜひ活用してください。



調べてみよう！
(参考となる URL・書籍一覧)



- 『見え方のQ & A 冊子』(千葉盲学校)
<http://cms1.chiba-c.ed.jp/chiba-sb/courseconditons-1/>
見にくい子どもとかかわる方からの疑問や悩みにQ & Aで答えが出ています。
- 『通常学級での視覚支援 すぐできる見えにくさの支援』
<http://www.chiba-c.ed.jp/chiba-sb/12%20eyes/2011.pdf>
すぐにできる支援について、写真付きで説明されています。
- 『見えにくさのある子どものサポートブック』(長野県長野盲学校)
<http://www.avis.ne.jp/~centenia/jireishu2014.pdf>
視覚障害教育の理論、各教科の配慮点、盲学校の実践についてまとめてあります。
- 『熊盲ガイド』(熊本県立盲学校)
http://sh.higo.ed.jp/kumamo/index.php?action=pages_view_mobile&block_id=248&nc_session=fm0mgngr8ocuts9qmvkkn01kt7
視覚障害や福祉サービスに関する情報が載っています。
- 『みんなが見やすい色環境』(財団法人 日本学校保健会)
<http://www.gakkohoken.jp/book/pdf/16iro.pdf>
学校における色環境への配慮や指導について簡単に書かれたリーフレットです。
- 『見えにくさ見えづらさのためのハンドブック』(茨城県立盲学校)
http://www.ibaraki-sb.ibk.ed.jp/image_top/Handbook.pdf
日常生活から、大学入試まで具体的な内容について書かれています。
- 『見えにくい子どもへのサポート Q&A』 氏間和仁編著 読書工房 (2013)
学校生活での子どもの見えにくさに対する支援方法が載っています。
- 『色弱の子どもが分かる本』岡部正隆 かもがわ出版 (2016)
色弱、色盲の子どもが困っているところ、支援方法が載っています。
- 『弱視の人に出会う本 (バリアフリーブック—見えにくいってどんなこと?)』
共用品推進機構 小学館 (2001)
弱視の子ども見え方について分かりやすく紹介しています。
- 『ふしぎだね!?視覚障害のおともだち』千田耕基監修 大倉滋之編集
ミネルヴァ書房 (2008)
弱視の子ども見え方について絵本で紹介しています。